

訂正とお詫び

2020年度7月5日実施・中学受験合判模小6国語

以下の設問で別解がありました。

4 次の①~⑤の類義語をあとから選び、漢字になおして答えなさい。

①欠点 ②賛成 ③無事 ④重宝 ⑤簡単

たいせつ・ようい・べんり・あんぜん・たんしょ・どうい

④「重宝」につきまして、「重宝な道具」という形での用法をもとに「べんり」を正解とする問題を出題しました。しかしながら「重宝」には「じゅうほう」との読み方もあり、これには「大切な宝」「大切に扱う」という意味が含まれます。そのため、今回は**「大切」「便利」の両方**を正解とさせていただきます。

受験生、保護者、関係者の方々に多大なご迷惑をおかけしたことを心からお詫び申し上げます。今後はこのようなことが起こらないよう作問業務のチェック体制を徹底し、再発防止に万全を期す所存でございます。

首都圏中学模試センター

教務部

		5	4	3				
⑥	①	①	①	①	問十	問八	問四	
習慣	検査	短所	オ	い	ウ	原理		
62	57	52	47	、	43	理的		
⑦	②	②	②	と	問九	③		
因果	貧困	同意	イ	い	エ	問五		
63	58	53	48	う	44	イ		
⑧	③	③	③	こ		問六		
看護	順序	安全	エ	と		ア		
64	59	54	49	と		41		
⑨	④	④	④	で		問七		
飼	点呼	便利	ウ	す		集団		
65	60	55	50	。		の		
⑩	⑤	⑤	⑤	問十一		た		
就	革命	容易	ア	ウ		め		
66	61	56	51	45		の		
				46		42		

【解説】

1 ささきありの「天地ダイアリー」（フレーベル館）から出題しました。

中学校に入学したばかりの「ぼく」が、クラスの中でどのような立ち位置にいようとしているかということ、まわりの生徒との関わりから描いた場面です。

問一 A2 知識 関係づけ

「ぎくしゃく」は動きなどがなめらかでなく、不器用な印象をあたえる様子です。「けんかをした直後なのでぎくしゃくとした会話になってしまう」などのように使います。「足をすくわれ」るは「油断などにつけこまれて失敗させられる」という意味の言葉です。「格下の相手に足をすくわれないうちに気をつける」などのように使います。語句の意味の辞書的な意味を覚えていくことはもちろん、実際の文章でどのように使われるかということも意識しておきましょう。

問二 B1 関係づけ 具体・抽象

直後に「自分の席が壁寄りとわかって、ほっとした」「ぼくがいられる場所は、この席しかなかった」とあることから、なかなか心地よい居場所を見つけれない「ぼく」にとつて安心して座っていられる場所であることが分かります。「ぼく」が学校になじめていない理由を探っていくと、この後に出てくる菊池さんとの会話から、「ぼく」が引越してきたばかりで知り合いがあまりいないことが読み取れます。

問三 A2 知識 関係づけ

それぞれ次のことが入ります。

i いきなりフルネームで「ぼく」のことを呼び、よく知らない「ぼく」相手にもどんだん話しかけている菊池さんの様子から「ハキハキ」が当てはまります。

ii 「テストとか勝負場面」「余裕をなくす」という前後の表現から、緊張感が高まって少しのことに神経をとがらせる様子を表す「ピリピリ」が入ります。

iii 「先生が来たよ」という女子の言葉を聞いて、雑談をしていた人たちがそれぞれ自分の席についていく様子を表す言葉です。いすや机を動かして席につく時に音が出るので、「ガタガタ」がふさわしいでしょう。

問四 B1 理由 比較

直後の場面で、「ぼく」が一年ほど前に、マスクをしないと家から出られなくなってしまうことが語られています。前にいた小学校で「下層」に属していたと自分で言っていることから考えても、クラスの他の人たちに自分がどうみられるかが気になり過ぎてしまって、マスクなしで外出できなくなったという理由が考えられます。ただし、どのような理由であれ注目されてしまうと、自分のクラスでの立ち位置が危うくなってしまう可能性があります。したがって「ぼく」はマスクと関連が高い話題で、他の人にもあやしまれないような「病気であること」を理由にしているのです。

問五 B2 推論 具体・抽象

この後に続く「ぼく」の言葉は「部活には入らない」です。「ぼく」が部活に入らない理由は、——線⑤と iii の間で

語られています。部活よりもクラスで立ち位置を確保することの方が大切で、クラス以外の人間関係が必要になる部活をやる余裕などないと感じているのです。「優先」「余裕」という言葉をうまく盛りこんで解答を作りましょう。

※ 設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字(ごじだつじ)が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

問六

1

B1 推論 具体・抽象 比較

「目星をつける」とは、どうすれば良さそうであるかということについてほしいの目安をつける、という意味です。「旅行の行き先について目星をつける」などのように使われます。委員会は全員参加なので、どうしても参加しなければならぬのであれば、できるだけ自分にとって負担が少なくなりそうなものは何か選別しようと考えているのです。

2

B1 理由 比較

自分の所属したい委員会に手をあげてジャンケンで決めるという方式がとられています。ここで不用意に手を挙げすぎたり、その他目立ってしまうような行動をとったりすると、後々良くない結果につながる危険性があります。したがって、どうすれば自分にとって悪くない結果になるかということを意識しながらも、変に目立たないように気をつけて動き方を決めようとしているのです。

問七

B1 推論 理由 比較

「そろそろ」という副詞に注目しましょう。「ぼく」は他の委員会との比較(ひかく)で、まだマシな方だと考えて栽培委員(さいばい)になろうとしています。この時点で残っている文化祭実行委員は、人とのやり取りがあるという点でやりたいとは思えない仕事です。できるだけ目立たないように手を挙げる様子から、他の人が手を挙げないでくれれば栽培委員になれるのだが、という気持ちが読み取れます。

問八

B1 関係づけ

二人の振る舞いを見て、ぼくは「ふたりとも、ぼくとは色がちがう」と考えています。二人に共通しているのは「自信がありそうな態度」であり、そのような態度は「ぼく」のにかく目立たないように過(ご)ごそうという態度とは明らかに異なっています。「色」の違いについては——線⑤の六行後に「層に分かれるのを見て思うのだけど、人はそれぞれ目に見えない色みたいなものをまとっているんじゃないかな。」という表現があり、色の違い＝層の違いであることが読み取れます。さらにその前に「上層」「中層」「下層」という区分が書かれていることから、二人は「上層」に入ると考えられます。

問九

B1 推論 理由 比較

「あえぐように」という表現に注目しましょう。「息を切らす」様子や、そこから転じて「苦しむ」ことを表すために使われる言葉です。「ぼく」は直前で「学校のしくみもよく

わかってないのに、自主的な行動なんてできるわけがない」と考えており、同じ栽培委員でありながら、クラス内の「上層」に属する菊池さんとの行動力のちがいににおどろき、自分にもそのような行動力が求められるかもしれないことに困惑しているのです。

2 西谷修の「戦争とは何だろうか」(筑摩書房)から出題しました。

よく知っているようで実は知らない「戦争」というものについて、「個」と「集団」の関係をふまえて論じた文章です。やや難しい表現をふくむ文章ですが、対比されている内容をしていねいにおさえながら読んでいきましょう。

問一 **B1** 具体抽象 比較

戦争が主権国家同士の争いであることが述べられた後で、もうひとつの戦争の要件が述べられています。**③**の前の段落にある「『戦争』という言葉にはもうひとつ欠かせない要件があります」という文を見つけれられるかどうかカギになるでしょう。

問二 **B1** 具体抽象 比較

線②をふくむ段落内で、近代国家とはどのようなものかについて説明されています。ここでは「第一に、第二に、第三に」という比較的分かりやすい形でその要件が列挙されています。選択肢の内容がこれら三つの要素とすべて対応しているかどうかをいねいに照らし合わせましょう。

問三 **A2** 関係つけ 比較

前後にどのような内容があり、それらがどのように接続されているかを考えて適切な語を選びましょう。

1 直前には、ふつうわれわれが想定する戦争とはどのようなものかについて書かれています。これに対して直後には、もう少し広い範囲にまで戦争という言葉の意味がおよぶことが書かれています。前の内容に補足する内容をつけ足していることから、エ「ただ」が当てはまります。

2 直前の「どのような争いを戦争と呼ぶのか」という内容が「犬の群れ同士は戦争をするのか?」という別の話題に変わっています。前の内容から別の内容に話を転換していただきますから、ア「ところで」が入ります。

3 直前には、戦争に負けた集団の中で生まれるものについて述べられています。これに対して直後では、勝った側でも負けた側でもない第三者が登場しています。戦争の後で生まれるもの、という基準でいくつかのものを並べる形になっていますから、オ「また」が入ります。

問四 **B1** 関係つけ

③直後の「単独の人間というのは存在しません」という内容が、次の段落の最初にある「だから必ず集団がある」とつながっていることをおさえましょう。そもそもの仕組みとして集団生活を行うようにできている人間は、単独で存在することはない、という内容をおさえたいので、★ではさまざまな部分から「そもそも」というニュアンスに近い表現を探

しましょう。

問五 **A2** 知識 関係づけ

語句の意味を問う問題です。「洋の東西を問わず」で、「世界中どこでも」という意味になります。「洋」「東西」を組み合わせると「東洋」「西洋」という言葉ができます。「世の東西を問わず」というまちが多い語句なので注意しておきましょう。

問六 **B1** 分類 関係づけ

他の部族と戦だということになったとき、すなわち非常時には、ふだんそれなりに尊重されている「個」は「集団」に吸収されるような形で目立たなくなる、というのが筆者の主張です。どちらが尊重されるのかに気をつけて、空欄の一つ一言葉を入れながら読んで確認しましょう。

問七 **B1** 具体・抽象 関係づけ

「集団が個に勝利する」ということは、個より集団が優先されるということです。「個」として自分がどうしたいかということを買くよりも、「集団」がどのようにうまく進んでいくかということの方により重点が置かれるというのが「非常時」の特徴です。「集団に属している一人一人の取る行動」について書かれている場所を意識して本文に戻りましょう。

問八 **B1** 具体・抽象 比較

勝った側だけの物語は、勝ったことよって得られたものやそれを得るために活躍した者、すなわち英雄をたたえる内

容になるはずですが。その際、個が集団に飲み込まれる形になることを踏まえると、ウ「一人一人が目ざましい活躍をした」という内容が物語になることはありません。

問九 **B1** 関係づけ 比較

⑦に続く部分を最後まで読んでいくと、戦いを通じて技術は進歩し、芸術も信仰もその中から生まれると書かれています。この内容に当てはまるのはエ「万物の生みの親」になります。一般的なイメージを当てはめて答えないように注意しましょう。

問十 **B1** 関係づけ

ぬけている文をもとにもどす問題です。まずはぬけている文そのものから、周囲にどのような内容が書かれているかということについて情報を見つけ出しておきましょう。「そういう関係」という指示語の指示内容や「平時に潜在化する」「集団を組織する仕組みとして浸透してはいる」という内容に關係することを述べているのは、——⑤をふくむ段落です。

問十一 **B1** 具体・抽象 比較

内容一致の問題を解く際には、選択肢が本文のどの部分の内容をふまえて作られたものかを考え、必ず選択肢内の表現を本文と照らし合わせて正誤を判断しましょう。ア「近代国家同士の争いだけを指して」、エ「負けた方の物語はあとかたもなく消えてしまう」がそれぞれ誤っています。